



平成19年10月29日

各 位

会社名 株式会社紀陽ホールディングス
 代表者 取締役社長 片山博臣
 コード番号 8415 東証・大証第1部
 問合わせ先 グループ企画部長 米坂 享
 (TEL 073 - 426 - 7133)

平成20年3月期 中間業績予想の修正について

平成19年5月18日に公表しました、当社の平成20年3月期中間連結業績予想に関して、下記のとおり修正いたしますので、お知らせします。

記

1. 平成20年3月期中間期の連結業績予想の修正(平成19年4月1日~平成19年9月30日)
 (単位:百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回公表予想 (A)	41,500	5,200	4,700
今回修正予想 (B)	43,600	7,200	7,400
増減額 (B) - (A)	+ 2,100	+ 2,000	+ 2,700
増減率	+ 5.1%	+ 38.5%	+ 57.4%
(ご参考) 前年同期実績(平成19年3月期中間期)	39,233	4,558	4,666

(*) 当社(株式会社紀陽ホールディングス)単体業績の修正はございません。
 なお、中間期を踏まえた平成20年3月期通期の連結業績予想につきましては、中間決算発表時(平成19年11月16日予定)に公表いたします。

2. 修正の理由

今回の修正の主たる要因は、子銀行(株式会社紀陽銀行)の業績が好調に推移したことによるものです。

子銀行においては、本業部分の利益であるコア業務純益が前年同期比(前年同期は旧和歌山銀行との合算)約22%増の112億円となる見込みです。

不良債権処理損失については、取引先企業の業況回復や担保処分などによる回収が進みましたことなどから、当初見込み以上に減少いたしました。さらに不良債権の最終処理を進めました結果、償却債権取立益が当初見込み以上に発生いたしました。

3.(ご参考)その他の業績予想

当社単体(平成20年3月期)

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期	2,600	2,400	2,400	2,300
通期	2,900	2,400	2,400	2,300

(*) 当社単体の業績予想につきましては、平成20年3月期中間期及び平成20年3月期通期ともに、平成19年5月18日に公表いたしました予想の変更はございません。

株式会社紀陽銀行単体(平成20年3月期中間期)

(単位:百万円)

	当初計画	中間期見込	差異
経常収益	37,000	40,200	+ 3,200
コア業務純益	10,000	11,200	+ 1,200
業務純益	10,400	13,300	+ 2,900
経常利益	5,500	7,700	+ 2,200
中間純利益	4,700	4,600	100
ネット与信コスト(*)	4,400	900	3,500

(*) ネット与信コスト = 一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額 - 償却債権取立益

(中間期見込みについて)

前出のとおり、紀陽銀行単体の本業における業績は好調に推移しております。

中間純利益のみ当初計画よりマイナスとなっておりますのは、紀陽銀行が保有しております当社第三種優先株式の評価損(55.6億円)を特別損失として計上していることが主因です。(本件評価損は、当社連結決算においては消去されるため、当社の連結業績には影響を与えません。)

なお、本日、本件優先株式につき当社が「自己株式の取得」を行うことを、別途公表させていただいております。

以上

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。